

美少女戦士もただのエサ

彼らにとって少女や若い女の肉体はエサである。妖魔と呼ばれる思念体は物や生き物に取り憑いて具現化し、獲物を捕食するモンスターとなる。これら妖魔に対抗する勢力として美少女戦士たちが活躍していた。可愛いコスチュームを身にまとい特殊能力をもってして妖魔たちを撃退していた彼女たちであったが、彼女らの肉体もまた妖魔からしてみればこの上ないご馳走であった・・・



【第1話】

女子トイレの洋式便器に取り憑いた妖魔はミミックトイレというモンスターと化す。トイレの個室に入った獲物を異空間に閉じ込め、何も知らない若い女たちはショーツを下ろし生尻を彼らの口へと乗せてしまう。勢いよくその生尻に喰らいつき、雌肉を尻から丸呑みにしてしまう。

とある地域に大量発生したミミックトイレは学校・公園・公共施設などなど、あらゆる場所にあるトイレに擬態し獲物である少女たちを美味そうに貪り喰っていく。美少女戦士たちは分散して妖魔撃退に向かう。

彼女たちの名前はセーラーガールズ。メンバーは5人で、それぞれのトレードカラーがあり個別の名前ともリンクしている。

セーラーピンク

セーラーオレンジ

セーラーイエロー

セーラーグリーン

セーラーブルー

とある現場ではショートカットの少女が裸の下半身をミミックトイレにくわえられ、今まさに呑み込まれている最中であつた。涙と鼻水と尿を垂れ流しながら、少女の肉体は少しづつミミックトイレの喉の奥へと送られていく。

彼がエサをくわえ直すたびに少女の身体は突き上げられるように揺さぶられ、まるで犯されているかのようであつた。彼の口の中にも食道にも胃の内壁にも性感帯がびっしりあり、実際に味覚とともに性的にも少女の肉体を味わっていた。獲物の太ももには短パンとショーツが残っており、開脚しそうで開脚しきらない。

そして20秒ほどすると少女の身体は完全に呑み込まれてしまった。ご馳走は胃の中で消化しているときも快感を溢れ出させてくれる。胃の中で無数の触手でもみくちゃにしながらか消化を促し、さらに衣服を剥ぎ取っていく。そして彼がペッと吐き出したのは少女のシャツ、短パン、靴下、ブラジャー、そしてショーツであつた。

気持ち良さげに獲物の肉体が消化されていくのを感じながら堪能していたミミックトイレの前に、さっそうと登場したのはセーラーイエロー。ご馳走であるとともに敵でもあると認識したミミックトイレは、長い舌をムチのようにしならせ攻撃を始める。

が、セーラーイエローはその攻撃をかわし、ポーズをとる。次の瞬間、黄色い閃光が辺りを照らし、ミミックトイレに稲妻が直撃！

強烈な電撃を受けミミックトイレは爆散してしまった。その破片は元の便器の破片へと戻り、妖魔の思念体が抜けていき、どこへともなく飛んでいってしまう。

別の現場ではミミックトイレがその長い舌で獲物の首を絞めていた。バストもヒップも大きめの食べ応えのありそうな若いOL。パンツもショーツも下げられ露わとなった無毛の陰部からは尿が垂れ流されている。息も出来なくなった雌肉は白目を剥きながら失神してしまった。

すかさずミミックトイレはこのご馳走を口の中へと引き摺り込み、口を閉じる。無数の鋭い歯が獲物の背中と乳房に突き刺さり、服に血がにじんでいく。そしてそのまま丸呑みにしていくが、ボリュームのある獲物はすぐには呑み込めない。

何度も何度も咬み直しながらのみこんでいくが、そのたびに露わになった尻肉がプルンプルンと揺れる。1分ほどかけて呑み込んだ獲物の身体から着ているものを無数の触手で剥ぎ取っていく。そして彼がペッと吐き出すと、スーツの上下、シャツ、ブラジャー、靴下、ショーツが床に貼り付く。唾液でネトネトになったショーツたち。

胃の中でボリュームのある乳房や尻肉を堪能していると、そこにセーラーグリーンが現れた。

すぐに攻撃するミミックトイレだったが、それをかわしたセーラーグリーンは右足にオーラを集中し蹴りつける。ミミックトイレにヒビが入る。が、止めまでは刺せていないことに気づくと、すぐにポーズをとる。すると緑色に輝く

サッカーボール大の光球が出現。彼女がそれを蹴り飛ばすと、高速でそれはミミックトイレに直撃！ミミックトイレは爆散してしまった。そして妖魔の思念体が抜けていき、どこへともなく飛んでいってしまう。

別の現場では、セーラーピンク・セーラーオレンジ・セーラーブルーの3人が一体のミミックトイレと戦っていた。この個体は取り憑いた妖魔のエネルギー値が高かったのか総量が大きかったのか、かなり強いのがうかがえる。3人の打撃は何度かヒットするものの、それほど大きなダメージは与えられない。そればかりかこのミミックトイレは舌を5本も出し、スピーディーに連続攻撃をしかけてくる。

そこでオレンジとブルーが囨となりヒットアンドアウェイを繰り返し、その隙にピンクはポーズをとる。するとセーラーピンクの胸の前に、ピンクに輝く大きなハート型の光が出現。それは猛スピードで放たれるとミミックトイレに直撃！

爆散・・・したかに見えるも、まだ止めは刺せていない。が、すぐに反撃できるだけの余力もない状態。オレンジとブルーもポーズをとる。オレンジ色の光球とブルーに輝く弓矢が出現し、セーラー戦士たちはそれらを放つ。直撃！大爆発。今度こそ爆散してしまった。

美少女戦士たちの活躍により、この地域に大量発生したミミックトイレの群れは一掃される。とりあえずは一件落着くということで撤収する少女たち。だが、妖魔そのものがいなくなったわけではないので、遅かれ早かれまた捕食モンスターが出現するのも時間の問題だろう。

爆散したミミックトイレの欠片。それは元の洋式便器の破片になっていた。そこにハエがとまる。そのハエに浮遊していた妖魔の思念体を取り憑くと、そのハエの姿はみるみる変貌していった・・・

【第2話】

ハエ男。身長2メートルほどのこの怪人は腕が4本あり、そのそれぞれの腕に尖った突起がたくさん生えており、一度獲物を捕らえたら逃れるのは困難。普通の人間にはまず逃れられない。

顔はまさにハエそのものというおぞましい姿をしていた。さらには羽根が生えており空中にて素早く移動することができる。エサとなるのはもちろん人間の若い雌肉であった。

とある学校のグラウンド。夕方、もうほとんど人がいなくなっていたが女子陸上部の少女が一人でランニングをしていた。ユニフォームは露出度が高く、面積でいえばほとんど下着に近い。スリムで筋肉質でありながら程よく乳房も

ついており、地面を踏みしめるたびに揺れるバストが主張していた。

その背後の空から何かが近づいてくる。ハエ男である。獲物に向かって一直線に飛んでいく。そして少女を4本の腕でガシッと掴むと、軽々と持ち上げどこかへ飛び去ってしまった。

少女は何が起きたのか理解できずもがくも、強力な4本の腕はビクともしない。そればかりか、腕に生えたトゲトゲが身体に喰い込み痛みがはしる。数分間少女を抱えたまま飛び続けたハエ男は、人里離れたとある廃屋へと入る。ここは彼の棲家なのであろうか。さっそく食事を始める。

ハエ男は少女の身体を逆さまに持って尻を自分の顔の前に持ってくる。そして2本の腕で少女を抱きしめて固定したまま、残りの2本の腕で彼女が履いている下半身のユニフォームを破り捨て、ショーツも破り捨てる。露わになる少女の下半身。

そして口吻（こうふん）、つまり棒状のような形の口を獲物の尻穴へズボッと突っ込んだ。思わず少女の口から「あっ・・・」と声がもれる。口吻の先端から消化液を流すと、少女は尻の中から消化されていく。その消化液は性的な興奮剤でもあるようで、少女はその気持ち良さから喘ぎ声を上げ始める。

獲物の直腸はじょじょに溶かされていき、その液体を棒状の口の先端で舐めとるように吸収していく。これがハエ男の食事方法であった。尻穴に口吻を突っ込まれたまま内側から溶かされ舐めとられ吸収されているにも関わらず、少女は快感に喘ぎつつける。

ハエ男にとってもこの雌肉溶液は美味であるとともに興奮剤のような性的快感を得られるご馳走であった。少女の腰の中はどんどん溶かされ吸収され空洞化していく。そのうち大臀筋や臀部の脂肪や陰部の肉も溶かされて吸収されていく。

引き締まった少女の肉体は陸上部なだけあってタンパク質もカルシウムも豊富なご馳走であった。ハエ男の食事はゆっくりゆっくり行われていく。

2時間後、下半身は喰い尽くされ少女の目は半開きで焦点は合っていない。もはや息はなかったが、その表情はどこか恍惚としたものであった。捕食者の方はひたすらに美味しい雌肉を溶かし吸収し味わいつづけている。もはや胸から上しかない少女の上半身も裸にし、程よい大きさの乳房が露わになる。この柔らかい肉も美味しく味わっていく。